

学生の力で駅のにぎわい創出を！

JR九州熊本支社

パートナー校に本学認定

JR九州熊本支社が展開している「駅のにぎわいづくりパートナー校」に本学が認定され11月20日（木）、本学1204・1205会議室で認定証授与式が行われました。

「パートナー校」の認定は、「住みたい・働きたい・訪れたい」まちづくりを目指す熊本支社が独自に行っている取り組みです。これからの熊本を支える学生らと連携し、駅及び駅周辺のにぎわいを創出しようと企画したもので、本学は7番目の認定となります。

認定式には関係者15人が出席。JR九州の三浦基路熊本支社長が「駅を中心にしたにぎわいを作るためにも、ぜひ忌憚のない意見を出してほしい。学業に励まれて楽しい大学生活を送ってください」とあいさつ。認定書を受けた竹屋元裕理事長・学長は「認定をきっかけに連携を強化させ、西里駅周辺で様々なイベントを開催したい。清掃活動も今まで以上に精を出してほしい」と述べました。

授与式に参加した学友会の学生は「健康づくりに関するイベントなど、地域を巻き込んだ企画を考えたい」と、今後の活動に向けて意欲を示していました。（NL編集部）



（左）と三浦JR九州熊本支社長・学長
認定証を手にする竹屋理事長・学長



認定証授与式後、記念撮影する関係者



本学キャンパスに隣接するJR西里駅周辺では、学友会の呼び掛けで、毎月1回の清掃活動が行われています

学校推薦型選抜を実施

年内入試で最も受験規模が大きい学校推薦型選抜（指定校・公募・離島枠）が11月22日（土）、実施されました。午前中は筆記試験、午後は面接試験が行われ、今年も多く受験者が試験に臨みました。

「離島枠」新たに設置

本年度から離島枠が設置され、1日に3つの入試が行われましたが、天気にも恵まれ滞りなく終了いたしました。合格者は12月4日（木）に発表されます。（入試・広報課）



理学療法の深化と探究—本学で熊本県理学療法士学会

PT 4 年太田さん、片村さん 学生セッション登壇

第27回熊本県理学療法士学会が11月9日（日）、本学で開催され、「理学療法の深化と探究」をテーマに特別講演や教育講演、学生セッションなど多彩なプログラムが展開されました。

教育講演では、本田啓太講師（理学療法学専攻）が「理学療法士とバイオメカニクス研究者の協働で拓くデータ駆動型歩行リハビリテーション」と題して講演し臨床と研究の融合を示唆しました。学生セッションでは理学療法学専

攻4年の太田乙羽さんと片村花梨さんが、またポスターセッションでは本学出身の坂本希々風さん（大学院生）が堂々とした発表を行い、参加者から高い評価を得ました。

大会開催にあたっては、準備委員に副学会長の山本良平准教授（理学療法学専攻）をはじめ、本学理学療法学専攻教員が尽力し、円滑な運営が実現しました。今後の理学療法の発展に向けた一歩となる学会となりました。

（理学療法学専攻 久保高明）

看護学科2年「成人看護学Ⅱ急性期」

手術後のリスク想定 患者に触れ声掛け

看護学科の2年生の必修科目「成人看護学Ⅱ急性期」は、成人期の中で、病気を発症し、症状が急に現れたり急速に進行したりする期間（急性期）について学びます。

11月21日（金）の授業では、開腹手術を終えた患者に向けてのシミュレーション・演習を行いました。3318実習室では、手術を終え1日が経過した患者に対して、ベッドから起き上がることを促し、ベッド周りを一緒に歩行。手術の傷が痛むことはもちろん、立ち上がることで低血圧を起こす場合や腕に装着している点滴の針が外れることがあるため、学生たちは、様々なりスク

を考えながら演習に臨みました。

一方、隣の3319実習室では、「手術直後観察」のシミュレーションとして、患者の血圧や呼吸音、酸素マスクがきちんと装着されているかなどを確認。患者役の人形（高機能患者シミュレーター）に触れて体温を確かめたり、積極的に声をかけ、痛みがないか聞いたり、隅々までチェックしていきました。授業終盤には、気がかりなことがないかグループ内で検討。全員で積極的に意見を出し合っていました。

（NL編集部）

授業
拝見

「手術が無事に終わりましたよ」。優しく声掛け



丁寧に聴診器をあてて呼吸音を確認

週間行事予定（12月1日～12月8日）	
12/6（土）	公衆衛生看護学専攻科・助産別科一般選抜
12/8（月）	【クマホの未来創造チーム】事務職員による勉強会（仮称） 言語聴覚学専攻 卒業研究発表会